



No.104

さいばい ニュース

公益財団法人
神奈川県栽培漁業協会
 発行所 〒238-0237
 神奈川県三浦市三崎町
 城ヶ島養老子
 ☎046(882)6980
 FAX046(881)2233

平成29年度 事業計画

種苗生産・放流、供給事業に全力

他県と連携し新たに 広域ヒラメ種苗放流事業も展開

当協会は昭和六十一年に、栽培漁業に関する事業で水産資源の維持増大を図り、漁業振興と神奈川県民に新鮮な魚介類を供給することに寄与しようと設立され、今年で三十一年目を迎えました。そこで今年度は、マダイ、アワビ、クロダイ、マコガレイの種苗生産を行い、東京湾や相模湾に放流します。また、漁業協同組合をはじめとする水産団体への種苗供給を行います。さらに、県下の漁業者などの要望の強いヒラメなどの資源維持増大を図るため種苗を確保して放流します。

また今年度は、これらの継続事業に加え新たに公益社団法人全国豊かな海づくり推進協会の支援を受け、他県と連携したヒラメ種苗の広域放流事業を展開することにより、関係団体などの協力により各種苗の増産を目指します。

平成二十七年からの第七次栽培漁業基本計画により、施設の老朽化対策として栽培関連施設の再整備が検討されており、当協会の種苗生産事業の増産につながるよう事業を進めます。

■事業内容

(一) 種苗放流事業
 ◎マダイ種苗放流事業
 東京湾域、三浦半島西岸域、西湘域各十萬尾
 ◎ヒラメ種苗放流事業
 東京湾域、三浦半島西岸域、西湘域各二萬尾

(二) 普及啓発事業
 ①PR推進事業
 「栽培ニュース」(二千字/回、年二回)を作成、

県内の水産団体、教育及び公共機関などに配布します。

②イベント推進事業
 各地のイベントなどに参加し、県民に対して水産資源の保護、海洋環境の保全の大切さを訴え、栽培漁業の普及啓発を行います。

(三) 調査事業
 マダイ遊漁標本船調査
 県内マダイ遊漁船の中から川崎市から湯河原町までのマダイ遊漁船に標本船調査を実施します(標本船十二隻)

(四) 種苗供給事業
 ①生産供給
 アワビ、サザエ、トコブシ、マダイ、クロダイ、マコガレイ種苗を生産し漁業協同組合をはじめとする水産団体へ供給します。

また、ヒラメ種苗の育成に取り組みます。さらに、トコブシ大型種苗の配布も併せて行います。

②斡旋供給
 ヒラメ、カサゴ、メバル、トラフグなどの種苗を入手し漁業協同組合をはじめとする水産団体等へ供給します。



資源の維持・増大のために—ヒラメ種苗放流

資源の維持・増大のために—ヒラメ種苗放流

「栽培ニュース」(二千字/回、年二回)を作成、

平成29年度 種苗生産・供給

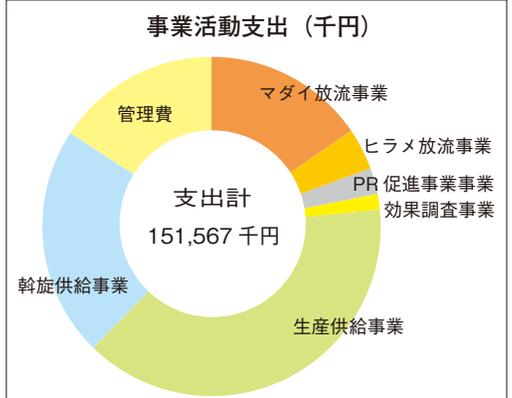
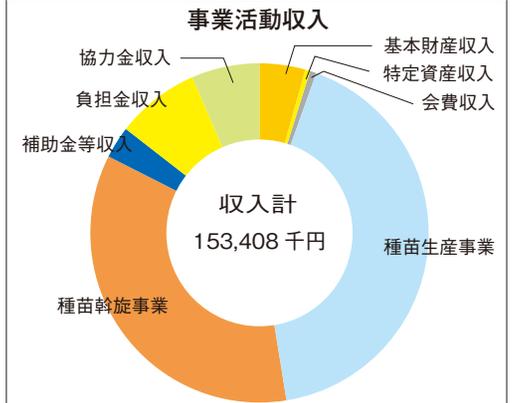
事業名	種苗名(サイズ)	29年度(計画)	28年度(実績)
生産供給	アワビ(5mm)	30,000個	30,000個
	”(25mm)	220,000個	214,000個
	”(30mm)	40,000個	35,530個
	サザエ(20mm)	300,000個	165,400個
	トコブシ(15mm)	50,000個	41,500個
	*トコブシ(大型)	20,000個	14,000個
	マダイ(60mm)	350,000尾	354,350尾
	クロダイ(60mm)	70,000尾	97,000尾
	マコガレイ(20mm)	37,000尾	0尾
	マコガレイ(30mm)	10,000尾	28,000尾
斡旋供給	マコガレイ(40mm)	25,000尾	26,000尾
	ヒラメ(60mm)	220,000尾	216,700尾
	*ヒラメ(大型)	0尾	180尾
	メバル(60mm)	30,000尾	38,500尾
	カサゴ(60mm)	180,000尾	179,500尾
	トラフグ(50mm)	15,000尾	12,500尾
カワハギ(50mm)	11,000尾	22,000尾	

*養殖用種苗

平成29年度 予算

収入	単位(千円)
基本財産運用	8,618
特定資産運用	563
会費	800
種苗生産事業	67,905
種苗斡旋事業	53,200
補助金等	4,764
負担金	11,758
協力金	9,820
マダイ協力金・募金	500
雑収入	250
事業活動収入計	153,408

支出	単位(千円)
マダイ放流事業	25,230
ヒラメ放流事業	6,381
PR促進事業	3,571
効果調査事業	2,088
生産供給事業	58,918
斡旋供給事業	33,319
管理費	21,997
事業活動支出費	151,567



平成29年度 予算

二十九年度の事業活動の収入の合計は一億五千三百四十万円余りです。種苗生産・斡旋事業による収入が主なものです。

支出合計は、一億五千万円余りで種苗生産・斡旋供給事業費とマダイ種苗放流事業費の支出が主なものになります。

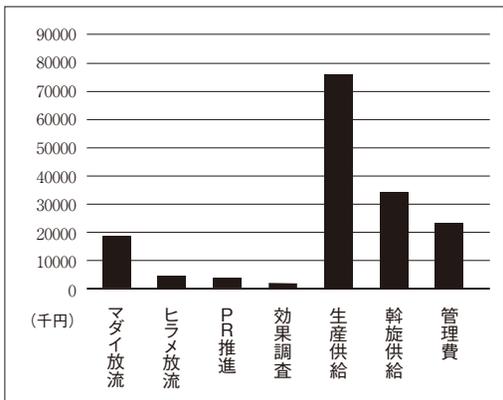
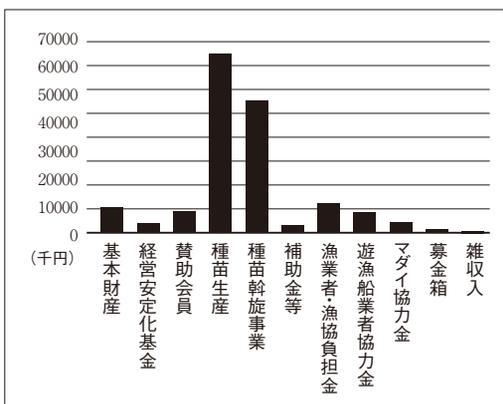
潮騒

「水産日本の復活」に向けて取り組む国の重要施策としてスタートしたのが「浜の活力再生プラン」(浜プラン)です。それぞれの地域に合わせ、将来、地域漁業があるべき姿や課題を漁業者が主体となつて考え、漁業所得の向上を通じて漁村地域の活性化を目指し、具体的な取組を实行するための総合的な計画です。この事業は平成二十五年から始まり、五年計画で、五年後に一〇%以上の所得の向上を数値目標としていきます。神奈川県では十二の浜プランが策定され、国の承認を受けて平成二十六年から「漁業収入向上」及び「漁業コスト削減」の取組が行われています。▼地区で見ると三浦市は上宮田・城ヶ島・諸磯・初声、横須賀市は長井町・横須賀市大楠、大磯町、小田原市、湯河原町福浦、平塚市、真鶴町の沿岸に加え内水面の相模川・中津川です。▼資源管理、水産物流通・販路拡大、荷捌き施設の整備などによる漁業収入向上を目指す取り組みが目につきます。▼また、漁業コストの削減では燃料使用料の削減が多く、漁協合併、資材コスト・労働時間削減、太陽光・波力発電の活用などの取り組みを上げているケースもありません。

平成28年度

決算

平成二十八年度の事業活動収入合計は、一億五千三百三十五万六千七百



十八円で、前年度比三百十七万九千七百八十八円減収です。

事業活動支出の主なものは事業費支出で一億四千七百九十九万六千二百六十一円でした。その結果、収支差額は九百二十四万八千三百七十七円

今年も当協会は、相模湾水産振興事業団の種苗放流事業用にマダイ、アワビ、ヒラメ、カサゴ、マコガレイ種苗を供給します。すでに、マコガレイ種苗は藤沢市及び小田原市漁協地先の海に放流しました。

相模湾を豊かな海にするために 今年も事業団に種苗供給

葉山町はアワビ、マダヒラメ、マダイ、小田原市はアワビ、ヒラメ、カサゴ、マコガレイ種苗を供給します。すでに、マコガレイ種苗は藤沢市及び小田原市漁協地先の海に放流しました。

房竹丸、6次産業化認定取得

クモダコに付加価値を付け商品開発

五月十八日、長井漁港の房竹丸直売所を訪れた船主は、漁獲した低価格のクモダコに付加価値を付けた「たこ飯の素」を開発・商品化しました。この地域資源を活用した新事業の創出が認められ、山本有二農林水産大臣から認定証が授与されました。



認定証を受ける宮川さん(中央)



タコ新商品

また、小さいタコを原料とした旨詰の「たこ飯の素」も開発しました。高校生の新商品開発授業とのコラボレーションにより、学校と漁業者との「協働・連携」商品として誕生しました。宮川さんは「地元の名産品に育て地域の水産物を盛り上げたい」と話しています。

日本釣振興会神奈川県支部

五千尾のヒラメ種苗放流

千尾は子どもたちが荒崎海岸に

日本釣振興会神奈川県支部は六月十一日、横須賀市長井町地先の海に合計五千尾のヒラメ種苗を放流しました。当協会が愛知県から購入し供給した八十九ミリの大きさに育った元気な種苗です。



ヒラメの稚魚を放流する子どもたち

この後、活魚運搬車に積み込まれたヒラメ種苗は、荒崎海岸に運ばれました。そして、長井地域の振興を目的として活動している「地域の未来を考える会」が行った「荒崎海岸クリーンフェスタ2017」に参加

相模湾シンポジウム

十月二十日

水産海洋地域研究集

九州大学名誉教授の柳哲雄先生が「開放型の相模湾における里海の創生」と題して基調講演を行います。引き続き相模湾水産振興事業団が取り組んできた里海に関する事業についてをテーマに話題が提供されます。

午後九時三十分から午後三時まで、小田原市生涯学習センターホールで開催されます。

アカモク商品化への取組始まる

横浜市漁協柴支所



アカモク製品づくり

東京湾の横浜市漁協柴支所がアカモクの商品化のための取組が始まりました。三月にはアナゴ筒、小型底引網漁業を営む若手漁業者を対象とした「アカモク研修会」が二回開催されました。同支所地先の海域でアカモクの収穫実習を行った後、製品の作り方やおいしい食べ方、増殖方法について説明を受けました。二回目の研修会では茹でて刻む加工実習を行いました。試食しました。

四月下旬にはアカモクの増殖試験に取り組みました。卵を持つ雌株と精子を持つ雄株を採取し、アカモクが生えていない海域に移植しました。参加した漁業者たちは、今後、「小柴の新商品」としてアカモクを定着させたいと張り切っています。

神奈川下漁港めぐり・・・シリーズ②

「小田原漁港」

県西地域水産物の流通拠点

小田原漁港は相模湾の西部に位置し、相模湾や伊豆近海の好漁場に恵まれ、昔から定置網漁業を主体に、沿岸漁業が盛んに行われてきました。そして、背後に箱根、西に湯河原、熱海から伊豆半

島といった観光地を控え、水産物の流通拠点として、また、災害時の緊急物資の受け入れ港、漁船などの避難拠点としての役割を果たしてきました。その小田原漁港の整備は昭和二十六年に始まり、平成六年からは第九次漁港整備長期計画がスタートし、新港の西側に定置網漁業などの漁獲物を畜養する水面が整備されました。そしてその岸壁に荷捌き施設が建てられ、漁獲物を水揚げし、保管・出荷する役割を果た

ています。さらに、完成したこの荷捌き施設に隣接した場所に「小田原漁港水産加工処理施設」の建設が始まりました。来年二月末の完成予定です。同施設が稼働すると、これまで、定置網などで獲れても未利用に近かった水産資源の有効活用を目指し、一次加工を行うこととなります。そしてその西側に、都市住民との交流拠点を整備することも計画されています。



小田原漁港(本港)



地域の台所「小田原魚市場」



完成した畜養魚の荷捌き施設

JICA 研修生を受け入れ



協会を訪問する研修生

JICA(国際協力機構)の「漁業コミュニティ開発計画コース」の研修生、十ヶ国、十六名が裁

培漁業の研修のため、当協会を訪問しました。昨年、十一月にはアルジェリア、カメルーン、コートジボアール、モロッコ、モリタニア、今年三月にはセネガル、ベナン、トーゴ、コンゴ共和国、ギニアのアフリカにあるフランス語圏の政府、地方政府の水産行政の中堅幹部や中核的漁業者の人たちです。研修生は二ヶ月間に日本各地の水産研究機関、漁業協同組合、加工施設を見学・研修をしました。彼らは、母国の水産業の発展に役立つ情報を持ち帰って、実践に生かすよう期待しています。

藻場回復に取り組んだ城ヶ島漁協

農水大臣賞受賞を黒岩知事に報告

城ヶ島漁協(池田金太郎組合長)は五月十六日、神奈川県庁を訪れ、黒岩祐治神奈川県知事に会い、三月に開催された第二十二回全国青年・女性漁業

者交流大会で、同漁協が発表した「城ヶ島における藻場保全活動」が農林水産大臣賞を受賞したことを報告しました。知事を訪問して懇談し



受賞を黒岩知事に報告

たのは池田組合長のほか、同大会で活動発表した石橋秀樹同漁協理事、そしてこの活動を支えた高梨瑞穂主任の三人です。滝口直之神奈川県水産課長らが付き添いました。冒頭、滝口課長は「大会では三十九のグループが発表し、城ヶ島漁協の発表が

ケ島漁協の活動発表は県下で初めて農林水産大臣賞を受賞しました。近年、藻場は磯焼けが進み、その対策に積極的に取り組んだ成果です」と受賞を紹介しました。池田組合長が「神奈川県などの支援を受け、県水産課や研究機関の職員の指導で最高賞を受賞することができました」と感謝の言葉を述べると、黒岩知事は、「素晴らしいことですね」と、受賞をともに喜びました。

栽培漁業に寄付

シマノ、棒面丸

リビエラリゾートシーボニアからも



1位の鈴木さんから寄付(棒面丸)



キスマスターで寄付

「神奈川県の水産資源を豊かにしてほしい」という思いを込め、今年も当協会は、わが国の釣り具メーカーの最大手・シマノ、三浦市・松輪で遊漁船業を営んでいる棒面丸、そして春、秋に釣り大会を開催しているリビエラリゾートシーボニアから寄付をしていただ

シマノから

きました。各社とも長い間、寄付を続けていただいております。

今年も三浦市松輪の鈴木功さんが二〇一六年十二月に六・九キログラムの大ダイを釣り上げ一位となりました。

リビエラから

当協会は、平成十三年度に「マダイ遊漁者協力金制度」をスタートしました。神奈川県下の海でマダイ釣りを楽しむ釣り人のためにマダイ資源を維持・増大させるため、種苗放流などを積極的に行動すると、遊漁者などに支援を呼びかけました。この制度の趣旨に賛同したシマノは、「マダイ釣りに関する事業を展開している企業として支援したい」と寄付を開始しました。そしてこれまでに寄付の総額は二千万円近くに達しています。

棒面丸から

三浦市松輪の棒面丸は毎年、年間のマダイの釣果で「大きさと重さ」を競う「ラブラブマダイ」のイベントを行ってきました。そして、その上位者を表彰しています。

平成十八年から、同社は春に「キスマスター」、秋に「ハギキスマスター」を行った際、その都度、当協会に寄付していたことがあり、その寄付の総額は約百五十万円に達しています。

編集後記

三浦市の城ヶ島漁協が今年三月に開催された第二十二回全国青年・女性漁業者交流大会で、神奈川県では初めて、最高位の「農林水産大臣賞」を受賞しました。アイゴという魚やガンガゼというウニの一種が海藻を食べ尽くす「食害」を防止する取り組みが高く評価されました。海藻が失われると「磯焼け」といわれる「はげ山」ならぬ「はげ磯」になってしまい、海藻を餌にするアワビやサザエなどは生息できません。また、稚魚の「揺りかご」といわれる藻場がなくなると、魚介類の産卵場所や幼魚が隠れる住処を失います。したがって、藻場再生は緊急の課題です。

